

【一】次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

① 身体からだというのは、本当に、やっかいなものだなあと思う。

朝、木立の中に入って、思い切り空気を吸い込んでみる。そのとき感じる清冽せいれつな気持ちよさ。われわれは、身体を持っているからこそ、それを味わうことができる。しかし、家に帰ってみれば、われわれは冷暖房完備れんだんぼうの部屋に住んでいる。身体に気持ちよい快適な室温を一日中維持いじしておくために、莫大ばくだいな電力を使い、資源を枯渇こかつさせている。

身体からだの声を聞くとは、どういうことなのだろう。それは、身体にとって気持ちのいいことを、なんでもやってみるということなのだろうか。そんな疑問があつて、「からだ」と「ころ」(「毎日新聞」二〇〇〇年二月二十八日)という文章を書いた。

そこで書きたかつたことを、別の角度からもう一度考えてみよう。

近代思想は、人間にんげんを人間たらしめているものは「人間の精神」、とりわけ「人間の理性」だとみなしてきた。

理性が(1)考えて、われわれの行動をコントロールするときに、人間は正しく振る舞まえるはずだし、社会の秩序ちじょも維持されるというわけである。

(2)、二〇世紀に入って、思想家たちはそのような考え方を本格的に疑いはじめた。人間は、理性によってコントロールできるような、単純な存在ではない。(3)、人間には「身体」というものがあつて、理性が「ああしろ、こうしろ」といくら言つても、それを(4)裏切つてしまうからだ。

② 「身体」という言葉がわかりにくければ、たとえば「自分のからだに刻み込まれたもの」という言い方をしてもいい。フロイトはそれを「無意識」とか「トラウマ」と呼んだ。生物学はそれを「本能」とか「遺伝子」と呼んだ。

このようにして、二〇世紀の思想は、人間にとつて「身体」がいかに重要であるのかを繰り返し強調したのである。(5)、シユタイナーのオイリュトミーや、インドの瞑想めいそうなどが注目されるようになるが、それもまた、「身体からだの感覚を鋭敏えいびんにすることによって、人間をより深く知ることができる」という彼らの思想が人々を惹きつけたからである。その流れは、もう一つの道を探る教育実践きょうじゅせんにも影響えいきやうを与えた。「子どもたちの身体が悲鳴をあげている」「子どもたちの身体からだの声を聴こう」という言い回しも、このような思想の流れのうえに位置づけることができる。

私は、そのような考え方をいちがいにヒテイするわけではない。だが、「身体からだの声を聴こう」と言つて、それを実践しているだけでは、どうにもならないくらい、現代文明の病理は進んでしまったのではないかという気がしてならないのだ。

苦痛を避けて快をどこまでもツイキユウし、いったん手にした既得権きとくけんは死んでも手放さないとという現代文明の宿命は、われわれの身体にこそ刻み込まれているのではないか。

私は、その宿命のことを、「身体からだの欲望」と呼ぶ。身体からだの欲望を理性によってコントロールするのは、至難しなんの業である。身体からだの欲望は、レールの上を全速力ぜんそくりきで邁進まいしんしてくる巨大な蒸気機関車きかんしゃのようなものだ。われわれの理性は、レールの上に立ちただかつて、その機関車をストップさせるだけの力を持ち合わせていない。

(6)、どうすればいいのか。

③ 私は欲望の「転轍」という作戦を考えている。走つてくる蒸気機関車のスピードを落とすことなく、その機関車の進路を、別の目的地に向かうレールへと巧みに切り替へてしまうことだ。そうすれば、身体からだの欲望という機関車は、いつの間にか、異なつた方角へと誘導ゆうどうされてゆくことになる。

たとえば、室温が快適にコントロールされている環境を手放したくないという身体からだの欲望があるとすると。しかし、クーラーを止めて外気を入れ、鳥や虫の鳴き声を聴きながら、冷たい水を飲むほうが、ずっと気持ちよいぞ、とわれわれの身体からだに向かつてさやいてみたらどうだろうか。その気持ちよさは、クーラーの部屋の気持ちよさは、また別次元べつじげんの、何か忘れていたものを思い起こさせるような気持ちよさだと、誘惑ゆうわくしてみてもどうだろうか。身体からだの欲望が、その声に少しでも反応すれば、それがチャンスだ。そこをきっかけとして、身体からだの欲望を転轍できる可能性がある。

(7)、身体からだの欲望との戦いは、自分をいかに「誘惑する」かという戦いになるのである。私は、身体からだの欲望に突き動かされた現代文明のことを「無痛文明」と呼んでいる。この「無痛文明」との戦いこそが、二一世紀の最大の思想的課題の一つになるとは間違まちがいない。

(注) ※清冽＝清らかで、さわやかなこと。

※枯渇＝無くなること。

(森岡正博著「いま身体をどう考えるか」による)

問四 (1)・(4)にあてはまる語を次のア〜クからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。  
ア やすやすと      イ はやばやと      ウ てきばきと      エ ずけずけと      オ びっしりと  
カ きつぱりと      キ ぴったりと      ク きつちりと

問五 (2)・(3)・(5)・(6)・(7)にあてはまる語を次のア〜オからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。(同じものを二度使用しないこと)。

ア では      イ なぜなら      ウ たとは      エ ところが      オ だから

問六 ——線⑤「身体」に対応する意味で用いられている語を、本文より漢字二字でぬき出しなさい。

問七 ——線⑥「このような思想の流れ」の内容にあてはまらないものを次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア シュタイナーのオイリュトミーや、インドの瞑想などに見られる思想。

イ 身体感覚を鋭敏にすることによって、人間をより深く知ることができるという思想。

ウ 理性がわれわれの行動をコントロールするから、人間は正しく振る舞えるはずだし、社会の秩序も維持されるという思想。

エ 人間にとって、身体こそが重要であると考えられる思想。

問八 ——線⑦「ヒテイ」・⑧「ツイキユウ」を漢字に直した場合、正しいものはどれですか。それぞれ後のア〜エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

⑦「ヒテイ」

ア 否定      イ 比定      ウ 非定      エ 批定

⑧「ツイキユウ」

ア 追給      イ 追究      ウ 追及      エ 追求

問九 ——線⑩「欲望の『転轍』という作戦」が具体的に説明されている段落の最初の五字を、本文中よりぬき出しなさい。(句読点をふくまぬ)。

問十 ——線⑪「走ってくる蒸気機関車」は、何をたとえたものですか。本文中より五字でぬき出して答えなさい。(句読点をふくまぬ)。

問十一 ——線⑫「その気持ちよさ」の具体的な内容が記されている一文の最初の五字を、本文中よりぬき出しなさい。(句読点をふくまぬ)。

問十二 ——線⑭「無痛文明」の具体的な内容が記されている部分を、本文中より四十五字以上五十字以内でぬき出し、その最初と最後の五字を記しなさい。(句読点をふくまぬ)。

問十三 右の文章の内容としてあてはまるものを次のア〜オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人間にとって、ここらよりからだの方が重要であり、身体の声聞くことが、現代の教育の最重要課題である。

イ 現代文明の宿命である身体欲望と戦い、それを異なった方角へと誘導してゆくことが、現代の最大の思想的課題である。

ウ 人間には身体というものがあるが、その身体欲望を理性によってコントロールすることは、完全に不可能である。

エ 人間にとって、からだよりもここらの方が重要であるからこそ、理性によって身体欲望を誘導してゆくべきである。

オ 身体にとって気持ちのいいことを何でもやってみるといふ身体欲望との戦いが、現代の最大の思想的課題の一つである。

※理性Ⅱ本能や感情に動かされることなく、物事を論理的に考え、判断する能力。

※コントロールⅡ思い通りに調節すること。

※フロイトⅡオーストリアの精神医学者。(一八五六～一九三九年)

※トラウマⅡ心に残っている傷。

※本能Ⅱ生まれつき持っている能力や習性。

※遺伝子Ⅱ親から子へと遺伝する性質を決定する元になる物質。

※シュタイナーⅡドイツの思想家・教育者。(一八六一～一九二五年)

※オイリュトミーⅡ目に見えない言葉や音楽を、目に見える形で身体表現する運動芸術。

※瞑想Ⅱ目を閉じて静かに考えること。

※鋭敏Ⅱするどいこと。

※実践Ⅱ実際に行うこと。

※病理Ⅱ病気を生み出す原理。

※既得権Ⅱすでに手に入れた権利。

※邁進Ⅱつき進むこと。

※ストップⅡ止めること。

※転轍Ⅱ鉄道で、線路を切りかえて、車両を他の線路に導くこと。

※誘導Ⅱさそい導くこと。

※誘惑Ⅱまどわし、さそいこむこと。

※チャンスⅡちようどよい機会。

問一 —— 線①「身体というのは、本当に、やっかいなものだなあと思う。」とありますが、その理由としてあてはまるものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 身体の欲望を理性によってコントロールするのは、完全に不可能だから。

イ 莫大な電力を使い、資源を枯渇させても、身体に気持ちよい、快適な室温を、一日中維持しておかなければならないから。

ウ 身体を持っていなければ、朝、木立の中に入って、思い切り空気を吸い込んでみたときに、清冽な気持ちよさを感じることができないから。

エ 人間には身体というものがあって、その欲望を理性によってコントロールするのは、簡単ではないから。

問二 —— 線②「それ」が指す内容を、本文中の語を使って、三十五字以上四十字以内でわかりやすく説明しなさい。(句読点をふくむ。)

問三 —— 線③「莫大な」・④「人間たらしめている」・⑨「至難の業」・⑬「別次元」のここでの意味としてあてはまるものを、それぞれのア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

③「莫大な」

ア 一番力の大きな。

イ きわめて量の多い。

ウ どんどん量が多くなる。

エ きわめて量の少ない。

④「人間たらしめている」

ア 人間をだめにしている。

イ 人間らしくさせている。

ウ 人間にふさわしいと思われる。

エ 人間らしいと考えている。

⑨「至難の業」

ア 大変時間のかかること。

イ きわめてやさしいこと。

ウ 一生懸命けんめいに努力すること。

エ きわめてむずかしいこと。

⑬「別次元」

ア ちがう位置・空間。

イ とても高い基準。

ウ すぐれた考え方。

エ ちがう性質・世界。

【二】次の①・②の俳句を読んで、後の問に答えなさい。

- ① 山路来てなにやらゆかしすみれ草 松尾芭蕉  
② 菊の香や奈良には古き仏たち 松尾芭蕉

問一 ①・②の句の季語をぬき出し、それぞれの季節を漢字で記しなさい。

問二 ①・②の句の作者「松尾芭蕉」は、いつの時代の人物ですか。次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。  
ア 平安時代      イ 鎌倉時代      ウ 室町時代      エ 江戸時代      オ 明治時代

【三】次の①～③の文について、——線ア～カの語の中から、主語と述語にあたるものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① あの からくり時計は あと 五分で 動く。  
② オリンピックは 四年に 一度 開かれる 大会です。  
③ あなたの 作文は クラスの 中で 一番 おもしろかった。

【四】次の①～③の文について——線の語が修飾している語を、——線ア～オの語の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 赤い 大きな 花を 見つけた。  
② 取れたての 新鮮な ミカンを使つて ジュースを 作る。  
③ 母が アイロンで 父の ワイシャツの しわを のばしている。

【五】次の①～⑧の文の——線のカタカナを漢字に直して記しなさい。

- ① テストのセイセキを母に見せる。      ② 三角形のメンセキを計算する。  
③ ようやく病気がカイフクする。      ④ フクザツな仕組みをしている。  
⑤ キョウリヨクして事に当たる。      ⑥ キョウリヨクなエンジン。  
⑦ 道ばたでお金をヒロウ。      ⑧ ごみ箱に紙くずを入てる。

【六】次の①～④の文の——線の漢字の読みをひらがなで記しなさい。

- ① 優勝したチームの写真。      ② 自分の住んでいる地域。  
③ お茶が冷める。      ④ 雪で車が立ち往生した。

